

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 他学部・他大学出身者に拡大した特別入試制度の効果を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→「他学部・他大学からの受験者数・合格者数・入学者数」「他学部・他大学からの入学者に対するアンケート調査の実施」「他学部・他大学からの入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B	B			
2. 社会人に拡大した特別入試制度による社会人入学者の増加を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→「社会人の受験者数・合格者数・入学者数」「社会人受験者の専攻科目」「社会人入学者の履修科目(昼夜別)」「社会人入学者に対するアンケート調査の実施と分析」「社会人入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B	B			
3. 本研究科への進学希望者のニーズを把握し、受験者を大幅に増加させるために効果的な方法を検討する。	→「学部学生に対するニーズ調査・進路希望調査の実施と分析」「大学入試説明会の開催状況」「学部学生と大学院生の交流状況」「広報活動の強化」「受験者数」「進学希望者のニーズを把握するための検討の進捗状況」	C	C			
4. 学生募集および入学者選抜の実施に伴う合否判定基準の適切さについて、定期的に検証する。	→「各種入試の合否判定基準についての大学院問題検討委員会における定期的検討」「各年度における大学院問題検討委員会における検討状況についての研究科委員長への報告」	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
	(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない
	(明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(受け入れ方針) ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学政治学の研究を極めることを通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富み、高度の専門的能力を獲得することを目指す人材を受け入れる。前期課程では5プログラム、後期課程においては3専攻が提供されている。
	(説明) 大学院案内や大学院履修心得その他において、上記理念および5プログラム・3専攻における人材養成目標が公表されている。
小項目5.0.2	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
	(説明) 2010年度より特別入学試験の対象を、他学部・他大学生および社会人にも拡大した。2011年度前期課程入試においては、45名の入学定員に対して、55名の志願者があり、32名の合格者を出し、そのうち、26人が入学した。後期課程については、6名の入学定員に対して、4名の志願者があり、2名の合格者を出し、そのうち、1人が入学した。
小項目5.0.3	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
	(説明) 前期課程については、コース制の再編および入学試験制度の改革等により、ロースクール設置後に低下した定員充足率は上昇傾向にある。2010年度の定員充足率は40%だったところ、2011年度には、54.4%と改善した。後期課程については、27.8%と下降傾向にある。
小項目5.0.4	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	(説明) 入試制度における論文試験・外国語試験・面接試験の評価基準および実施方法について拡大大学院問題検討委員会および研究科委員会において検討し、申し合わせの改正等を行った。
その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学研究科】		前期/後期課程	単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	45	45	45	45	45	
		後期課程		6	6	6	6	6	
指標2	志願者総数	前期課程	人	30	22	29	39	55	
		後期課程		5	4	5	8	4	
指標3	合格者数	前期課程	人	17	17	18	25	32	
		後期課程		4	2	2	2	2	
指標4	入学者数	前期課程	人	11	14	13	20	26	
		後期課程		4	2	2	2	1	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	0.7	0.5	0.6	0.9	1.2	志願者÷入学定員
		後期課程		0.8	0.7	0.8	1.3	0.7	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.48	0.39	0.36	0.32	0.37	入学者数÷入学定員
		後期課程		0.50	0.47	0.43	0.37	0.37	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	90.9%	78.6%	61.5%	50.0%	61.5%	一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	90	90	90	90	90	
		後期課程		18	18	18	18	18	
指標9	在籍学生数	前期課程	人	29	28	29	36	49	
		後期課程		10	10	11	6	5	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	32.2%	31.1%	32.2%	40.0%	54.4%	
		後期課程		55.6%	55.6%	61.1%	33.3%	27.8%	

(その他の指標データ)

入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】

地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合

科目等履修者の入学者数

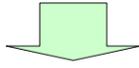
聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

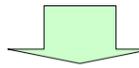
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○他大学や社会人に枠を拡大した特別入試の実績が出始めたことは評価されます。
○但し、収容定員に対する在籍学生数比率が後期課程は低下傾向であり、前期課程は改善されているとはいえ、まだ5割強と低い水準にあります。志願者数をもっと拡大する努力が求められます。

【学内委員】

○前期課程の入学者が順調に回復しており、評価できます。理由などの分析結果や、増加傾向を定着させる方策についても言及することが期待されます。

○目標に対して順調に進展していると判断します。

○「C」の項目については、「改善すべき事項」に記述することが望まれます。

○大学院における定員確保は本学だけの問題ではなく、質の問題もあり困難な問題ですが、特別入学試験を工夫されることなどにより、志願者数を増やしており、評価できます。ただ、収容定員に対する在籍学生数比率は依然として厳しいので、今後の継続した努力に期待します。

○方針の説明にある「人材養成目標」という表現は、「学生の受け入れ方針」ではないでしょうか。

○受け入れ方針の明示は、大学基準協会の基盤評価にもあるように、ホームページでの公表も求められます。現在は、入試要項などをホームページに掲出することで示していますが、受け入れ方針のみを掲出することも、見やすい教育情報の公表の観点からもお考えください。全学的なことでもあります。

○小項目5.0.2は、大学基準協会の基盤評価は「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」としています。この観点からの記述が望まれます。現在の記述内容の志願者数などは、小項目5.0.3で良いかもしれません。

○小項目5.0.3における「定員充足率」は、「収容定員に対する在籍学生数比率」とされた方が正確で間違いがないと思います。

○小項目5.0.4は、定期的な検証を求めていますので、今後の定期的な検証を望みます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと明らかであるかに留意する。）

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○ 小項目5.0.1 <現状の説明> (説明) に以下を追加。

「それぞれのコース・プログラム、専攻において掲げられた人材養成目標を前提にそれぞれの進路志望を持つもの、そしてそれにふさわしい学力を持つ者を受け入れることが方位となっている。」

☆ ○ 小項目5.0.2 <現状の説明> (説明) に以下を追加。「また、大学院入試問題を広く一般に公開していることによって、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであることを担保するものとなっている」、に変更する。

○ 小項目5.0.3 <現状の説明>における「定員充足率」は、「収容定員に対する在籍学生数比率」に変更する。